大高ジャーナル

発行所
鹿児島県立大島高等学校
新聞部
奄美市名瀬安勝町７－１

疎開船「対馬丸」追悼の夏が過ぎて

戦後78年

高校生が継承する奄美の記憶

戦後78年となった2023年、先の大戦を経験した世代の人も年々減少している。戦争の記憶を私たちの世代で絶やすことのないように、今回は戦争の体験談を語り継いでいる宇検村宇検集落の川渕哲二さん（78）に、1944年8月22日、アメリカ軍の攻撃によって沈没した疎開船「対馬丸」についてのお話をうかがった。

79年前に遺体が流れ着いた船越海岸に建立された慰霊碑

太平洋戦争の開戦から2年半が経過した1944年7月、当時、日本の委任統治領となっていたサイパン島での戦いで日本軍が玉砕した。沖縄本島への攻撃が現実的になったため、当時の沖縄県知事に対して日本政府は「非戦闘員である老人や児童を本土や台湾に疎開させよ」という通達を出した。しかし、疎開を希望する者が少なく、軍が主導して半ば強制する形で児童を疎開させた。

8月21日午後6時35分、那覇国民学校の生徒と民間人1661名を乗せて、対馬丸とその他2隻の船団は那覇港を出港した。船内の児童の様子はまるで修学旅行に行くようであったそうだ。8月22日になると、一隻のアメリカ海軍潜水艦が対馬丸の船団を追跡していた。追跡されている間も、対馬丸に乗船している児童は疎開先での楽しい生活を想像して疎開先の長崎県に到着する事を心待ちにしていたであろう。だが、追跡を行っていたアメリカ海軍潜水艦「ボーフィン」が発射した魚雷が命中し、午後10時23分十島村の悪石島沖に対馬丸は沈没した。対馬丸に乗船していた児童を含む乗客は、台風接近に伴い荒れていた海に放り出された。

救命イカダには力の強いものから我さきにとしがみつき、力の弱い児童たちは次々と力尽きていった。生き残った人たちは食料や水がないので飢えや喉の渇きに襲われた。さらに、血肉の匂いに誘われてサメも襲来するようになった。イカダに乗っている人の中には、なんとか喉の渇きを和らげるため小便を飲むものまでいたという。生き残った乗客が語った記録によると、漂流中の様子は地獄よりも酷い状態であったという。

宇検村に生きて流れ着いた人々は、6日間も海上を漂流したそうだ。宇検集落の船越海岸には、対馬丸の乗客の遺体も流れ着き、最終的には106体もの遺体が打ち上げられた。地元の住民が、遺体を処理して海岸に埋葬しようとしたが、その光景の異様さは、焼酎を飲んで酔った状態でないと作業ができないほどであったという。

戦後70年となった2015年当時、宇検集落の区長をしていた川渕さんは、村長に対して対馬丸慰霊碑の建立を要望した。そして、2017年3月、遺体が打ち上げられた船越海岸に慰霊碑が完成した。毎年8月には地元の久志小中学校の生徒も参加して慰霊祭を行なっている。慰霊碑を通じて平和の尊さも伝えているという。

〔記録　米田博翔〕

6月3日　宇検防災会館にて川渕さんに取材

1面…疎開船「対馬丸」追悼
2面…文化祭特集
　　新任者紹介
3面…部活動特集他
4面…しまんちゅ釣り人発見他

大高ミニギャラリー

ダンス部の「我樹。」（ガジュマル）

奄美大島＝鹿児島県本土から南西約370㎞，面積712.35㎢，広さ日本５位(本州等４島除く)の島，亜熱帯海洋性気候，奄美群島国立公園の一部

奄美復帰70年

2023年12月25日に、奄美は日本復帰から70周年の節目を迎える。奄美は1946年2月に本土と行政分離され、米軍政府下におかれた。しかし、当時の住民たちは日本復帰運動を行い、奄美の日本復帰のために努力を重ねていた。それから8年の時を経て、1953年12月25日に日本復帰を果たした。復帰運動の記録を次世代に伝えていくために、毎年12月25日に行政と民間が連携して、「日本復帰記念の日のつどい」を開催している。また今年は、70周年の節目を祝して、11月11日には、奄美復帰70周年記念式典を奄美川商ホールで開催予定である。高校生も地域の一員として、奄美の復帰運動の歴史を知り、伝えていくために参加してみてはどうだろうか。

〔時田琥太郎〕

＊「大高ジャーナル19号」では、奄美復帰70年の特集を予定しています。そこで、読者の皆さんに左のQRコードから回答して頂き、高校生の我々が戦争にどう向き合うべきかを考えて記事にしたいと思います。ぜひ、ご協力をお願いします。

大高坂

「そんな時代もあったねといつか話せる日がくるわ」中島みゆきの楽曲「時代」の一節で思い出す歴史が奄美にはある。戦後、米軍統治下で、住民が一丸となって復帰運動を行った結果、奄美は祖国への復帰を果たした。苦しい時こそ、未来への希望を胸に歩み続けた人々の思いが、その原動力となった。▼5月、G7広島サミットにウクライナのゼレンスキー大統領が対面参加した。大統領は、ロシアから攻撃されているウクライナ東部の町と広島を重ね「広島は再建した。ウクライナの街並みも早く再建できることを夢見ている」と語った。▼「時代」は、「今はこんなに悲しくて涙もかれ果ててもう二度と笑顔にはなれそうもないけど」の歌詞から始まる。戦火に呑まれたウクライナには、今も不安な夜を過ごす人々がいる。時代は繰り返す。これまでも、そしてこれからも。しかし、過去の教訓を未来に活かせば、少しでも良い方向に向かうかもしれない。今年、奄美は日本復帰70年の節目を迎える。次世代を担う私たちの手で、平和な未来を繋ぎたい。

〔赤井洸太〕

〔お知らせ〕大高ジャーナルは，本校の「大高ブログ」からバックナンバーも含めてご覧になれます。

大島高校 文化祭 特集　令和5年 6月11日(日)

6月11日に行われた文化祭は、昨年度までのコロナ禍における観覧規制が解かれ、「放～新たな幕開け 自由を解き放て～」を統一テーマとして、舞台発表や校内展示を、大勢の保護者や地域の方々と共に楽しむことができた。新型コロナが5類に引き下げられて以降初の行事として、新たな「日常」の幕開けを実感させてくれる文化祭となった。

華やかに文化祭のオープニングを飾った書道部

４年ぶりの通常開催に喜び爆発！

美術部作成の看板（校舎正面生徒玄関）

舞台部門は、３学年各クラスの演劇や、吹奏楽部やダンス部をはじめとした部活動の発表の他、幕間参加の有志のグループなどが華やかに競演し、午前と午後の二部構成で進行した。

展示部門は、パスポートを持って「世界旅行」を味わえる空間を演出した。「ポケットモンスター」の世界を再現したアドベンチャーや、「縁日」のゲームを楽しめたり、ステンドグラスのフォトスポットでの撮影など、コロナ禍からの解放感を満喫できる体験型の展示が人気であった。

［文・写真　盛蒼太郎　大野清志郎　赤井光汰　関佳世］

㊤左：トランペット独奏（吹奏楽部）の龍麻央さん（３－１名瀬中）右：空手部の演武

㊦３－３の舞台「Another Snow White」

㊧御点前を披露した茶道部　㊦新体操部の久保慧美さん（１－１金久中）の可憐な演技

㊧「夏だ！祭りだ！花火だ～English謎解きで盛り上がれ」景品コーナー（２－１）

舞台部門の総合司会を務めた３名

左から浜崎裕太君（３－４金久中）西田徠夏君（３－４古仁屋中）川畑波音君（３－４古仁屋中）

ようこそ大島高校へ
☆新任〔書道〕迫（さこみ）美咲（さき）先生

みなさんこんにちは。８月より育休から復帰しました迫美咲といいます。３年半ぶりに学校に戻ってきて，やっぱり学校っていいなぁと再確認しているところです。

私は高校時代，教室に掲示されたボランティア募集の企画に応募して，東南アジアのラオス人民共和国に行ったことがあります。「ここがラオスの首都，この国の一番都会の小学校だよ」と言われた場所に校舎はありませんでした。机や椅子，黒板，ノート，鉛筆などもありません。集まってくる子供たちは素足，まだ幼い赤ちゃんをおんぶしている子供たちもいました。それまで日本で，毎日なんとなく学校に行って勉強をして，部活動をして，家に帰ってごはんを食べて，と当たり前だと思っていた生活が当たり前ではないことを知ったあの衝撃を忘れることはありません。

世界には，生きたくても生きることのできない子供たちがいます。日本は恵まれています。恵まれているからこそ，できることはたくさんあります。たくさんの選択肢があります。今日も仲間たちと共に，学び，汗をながし，笑い合うことができます。

みなさんが充実した学校生活を送ることができるように，一緒に歩んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

論説

戦争の記憶を次世代へつなぐ
「聞き取る」から「語り継ぐ」へ

今年の８月で終戦から78年を迎える。戦争の悲惨さを伝え、二度と起こさないために、この大高ジャーナルでも「大高生と日本復帰運動」（大高ジャーナル５・６・７号）という連載を組み、日本復帰運動に関わった当事者の方に話をうかがうことができていた。しかし年々、戦時中や戦後の生活を実際に経験した方は亡くなってしまったり、ご存命でも取材が難しい状態であったりして、お話をうかがうことができなくなっている。実際に、今回の本紙１面の対馬丸の記事でも、初めは救助活動に参加した当事者である大島安徳さんに取材をする予定であった。しかし、ご高齢のため、大島さんから対馬丸の話を伝え聞いた川渕哲二さんに話をうかがうことになった。現在、川渕さんは、対馬丸の慰霊祭を開催したり、依頼があれば講演をしたりして、対馬丸の事件を後世に語り継いでいる。

大島さんが川渕さんに伝え聞いたことのなかに、「対馬丸に乗っていて、流され亡くなった人にはみんな名札がついていた。しかし、その名前を記録していなかった。遺体を埋めた場所も記録していなかった。とても後悔している。歴史を記録し保存しておくことはとても大切だ」という内容がある。数年前、実際に沖縄から遺族の方が遺体を引き取りに来た際に、埋めた場所の記録がなくて、遺体を見つけることが出来なかったということがあったそうだ。「あと数年早ければ、大島さんに話を聞くことができたのに」そんな川渕さんの言葉が印象的だった。

今までは戦争を体験した方から話を聞くことが出来ていたが、それが難しくなってきている。しかし、戦争について語り継いでいくことが大切なことには変わりはない。誰も戦争のことを語れなくなってから、「あと数年早ければ、話を聞くことができたのに、記録を残しておけば良かった」と後悔してもう遅い。78年が経過し、体験者の戦争の記憶が埋もれつつある現在を生きる私たち高校生には、戦争について前の世代から聞き取り、自分たちの次の世代へと語り継いでいく義務、責任があるのではないか。語られた事実を記録して、次世代へ受け継いでいくことで、当事者の方が身を持って感じた「戦争をしてはいけない」という強い思いはずっと受け継がれていくはずだ。

［有田結愛］

文武両道の活躍

春夏の主な戦績

吹奏楽部
〔第68回鹿児島県吹奏楽コンクール（高校A部門2日目）〕金賞（SAXパート）織部賞〔第47回鹿児島県高等学校音楽コンクール」（木管楽器部門）金賞　肥後政哉（2―6名瀬中）

書道部
〔第72回南日本書道展（高校生の部）〕優秀賞　原二葉（3―2朝日中）

放送部
〔第70回NHK杯全国高校放送コンテスト鹿児島県予選大会〕朗読部門　優秀賞（第3位）上原奈々（3―6金久中）

英語部
〔鹿児島県高等学校パーラメンタリーディベート春季大会〕第2位　柏佳那（2―1金久中）隈元良寛（2―1朝日中）柳原結（2―6田検中）

「我樹。―生殺与奪な幸福の木」は部員同士で試行錯誤して作品に仕上げた（ダンス部）

水泳部
〔鹿児島県高等学校春季水泳大会〕男子100M背泳ぎ　第1位　有村颯太（3―1金久中）男子200M背泳ぎ　第2位　有村颯太〔鹿児島県高等学校総合体育大会水泳（競泳）競技〕男子50Mバタフライ　第1位　谷仲遊（1―6名瀬中）男子50M平泳ぎ　第2位　阿部ハイマ（1―5赤徳中）男子100M平泳ぎ第2位　有村颯太

陸上部
〔第76回鹿児島県高等学校陸上競技大会〕男子5000M競歩　第1位　原勇輔（3―6東城中）〔第76回全国高等学校陸上競技選手権大会南九州地区予選大会〕男子5000M競歩　第2位　原勇輔〔第78回鹿児島県陸上競技選手権大会〕5000M競歩　第3位　原勇輔

ダンス部
〔第36回鹿児島県高等学校総合体育大会ダンス発表会〕優秀賞（2位相当）

ラグビー部
〔第76回鹿児島県高等学校総合体育大会ラグビーフットボール競技〕第3位〔KOBERCO CUP 2023 第19回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会〕第2位九州代表　西田徠夏（3―4古仁屋中）外薗昴佳（3―3小宿中）

北海道総体に参加した原君。決勝で惜しくも入賞を逃したが,秋には鹿児島国体に出場予定だ

長野県上田市菅平高原サニアパークで開催された全国大会で2位に輝いた九州代表メンバーの2名（右）外薗君、（左）西田君

各種コンクール等
〔第2回奄美を写す写真展〕佳作　松岡天真（2―4犬田布中）川原蓮成（2―1赤木名中）ヤング賞　前島沙綾（2―5赤木名中）

大高一番星

盛こころさん
（2－2名瀬中出身）

今回の大高一番星は、第73回鹿児島県高校美術展で素敵な色使いで見た人を魅了し、見事、高校美術展準大賞を受賞した盛こころさんだ。受賞した彼女の作品はインコが元気よく羽ばたいている姿がポイントで、インコの羽の一枚一枚にこだわった丁寧な筆使いで躍動感の溢れる絵となっている。まさに美術部の一番星だ。

Q絵のどういうところが好きですか？
A暇な時に常に描いていて、無心になれたり集中できたりするところが好きです。
Q賞を取った作品「インコ大暴走」について描く時に工夫したことは何ですか？
A1つの画角からではつまらないので色んな角度からインコを撮ったり、インコの大きさを調整して遠近感を出したりしながら、どうしたらインコが暴れているように見えるか、考えながら描きました。
Q総文祭への想いは何ですか？
A総文祭では大島紬を使った起き上がり小法師を作成し交流会を開いたり、全国から集まった作品の鑑賞、「ファイナルファンタジー」と細田守監督の「竜とそばかすの姫」のイメージ画を描いた上国料勇さんの講演会を美術部員で聞いたりします。その中でも全国から集まった作品の鑑賞をし、みんなで感想を言い合うことが楽しみです。
Qこれからの目標は何ですか？
A次にある作品展で「奄美を描く美術展」というのがあり、賞を取るのはなかなか難しいことですが、去年も賞を取ったので今年も取れるよう頑張りたいです。
Qどういう絵が好きですか？
Aしっかりした絵が好きです。水彩画は色彩が淡く、雰囲気が柔らかいのでリアルさに限界がありますが、油絵は表現方法が幅広く、はっきりとしたタッチで描くこともできるので好きです。
〔大倉呂美・加藤笹月〕

Q絵を描き始めたきっかけは何ですか？
Aもともと絵を描くことが好きだったので中学では他の部活をしていましたが高校に入って絵を極めようと思い美術部に入り絵を描き始めました。

全国への道を拓く

書道部

7月の時点で、書道部の部員は、1年生8名、2年生8名、3年生10名の計26名。「悔いが残らないように」という言葉を大切にしながら、主に作品展への出品、学校行事や校外のイベントでの書道パフォーマンスを中心に活動している。今回は、前部長の山下優美さん（3―4朝日中）と、部員の西田歩乃佳さん（3―2金久中）、そして旧顧問の木村文音先生にお話を伺った。

大高の書道部は、部員の9割が初心者であるが、『第27回全日本高校・大学生書道展』で、高校の部・団体10位の成績を収め、個人でも複数人が上位の賞に輝くなど全国レベルの活躍を見せている。また、原二葉さん（3―2朝日中）は今年の「2023かごしま総文」への出場を果たした。普段の練習では、上達のために、書道ノートを作り、反省を書いて先生からアドバイスをもらったり、部員同士で指摘し合ったりしているそう。書道の魅力を聞くと、山下さんは、「書道は、文字にその時の感情が全て出ます。自分で考えて工夫をすることで気持ちが深まるところが魅力です」と話した。また、西田さんは、「大高の書道部は人数が他の学校と比べて多く、パフォーマンスの依頼も多いため、書道の魅力をたくさんの人に伝えられます。パフォーマンスでは、全員で協力しながらゼロから振り付けを考えるためとても大変ですが、やり終えた達成感を感じたときや、地域の方々から褒めて貰えたときはやはり嬉しくなります」と書道部としての活動の楽しさについて語った。また、書道部について木村先生は、「みんな素直で、自分を持っています。思い通りに書けなくても、最後まで諦めずに自分と向き合おうとする精神的な粘り強さを持っており、基礎を教えるだけで驚くほど伸びる生徒が多いです。今後も学年に関係なく、互いに良き仲間、ライバルとして刺激を受けながら、自信を持って頑張ってほしいです」と部員への期待を寄せた。文化祭での書道パフォーマンスに感動した人も多いのではないか。8月から新顧問の迫先生のもと、ますますパワーアップしている書道部は初心者も大歓迎、部員募集中だ。気になった人はぜひ書道部に入って、全国を目指してみては？
〔小川さくら〕

放課後の練習風景（特別棟4階書道室）

木村先生（中央）山下さん（右）西田さん（左）

※記事中の本校生の個人名に併記した中学校名は，出身中学校です。

Vol. 4

我逢人

学校。それは憧れの場所だった。宮崎での手術を終え、夏休みも残り2日となった日、奄美に帰ってきた。その時の心情といったら、ドキドキとワクワクばかりだった。しかし学校に行くのも実に四ヶ月ぶり。学校という非日常へ飛び込むことに緊張を覚える。朝起きて学校へ向かい、授業を受け、友と会話を交える。毎日同じことの繰り返しなんてつまらない。前はそう思っていた。でもこれからはそんな何気ない日々を大切にしていきたいと思えた。

しかし始まってみると問題が出てきた。入院中にまともな生活をしていないため、体力が極限まで低下していた。歩くだけで疲れるし、普通に生活するだけで頭痛をきたす。３年生になるまで毎日早退・欠席を繰り返し、学校へフルで通えた日は無かった。入院生活から解放されてやりたいことが沢山あるのに、体はそれを許してくれなかった。前のめりな気持ちとボロボロなカラダ。ずっと学校を楽しみにしていたが故に、そのギャップに日々苦しめられた。

頭痛になる度、保健室や学年職員室で休んだ。だが休めば引くような頭痛ではなかった。１時間休むと「痛みはどう?早退する?」と保健室の先生に聞かれる。早退するとなると保健室の先生が電話で担任の先生に早退する旨を伝え、保護者への連絡をお願いする。この時間がいつも辛かった。毎日毎日自分のせいで保健室の先生や担任の先生に迷惑をかけている。ただでさえ忙しいのに足手まといになっちゃってる。申し訳なさで胸が締め付けられ、迷惑をかけるくらいなら嘘でも「治りました。」と言った方がいいと思った。次第に保健室に入るのも嫌になってきて、体調不良を言い出すのが怖くなった。

積もり積もった自責の念はある日崩れ落ち、僕は学年職員室で机に伏せながら声を上擦らせていた。担任の先生は声にならない声を静かに聞いてくれた。「足でまといなんて誰も思ってないよ。無理された方が心配なんだから。」優しい声は自分の存在を拒絶していた僕に「ここにいてもいい」ことを、教えてくれた。

あれから数年経った今、僕にはある信念がある。それは「人生は逆算で作られたもので、それ故に人・モノとの出逢いは必然的であり、それが自分を作る」というものだ。

僕たちは生きている以上未完成で「最終的な完成形の自分」になるために得ないといけないものを、人やモノとの出逢いというキッカケから得ている。また、キッカケがあるから何かが得られるのではなく、何かを得るためにキッカケがあるのだと思う。つまり、人・モノとの出逢いは逆算的に配置された必然的なものなのだと。

苦難が襲う度、前が見えなくなる。足元を見ちゃって歩けなくなる。「なんで急にこんな辛い目に。」誰もがそう思うだろう。そんな時僕はこう考える。「これは何か大切な物を得ようとしている、過程・キッカケなんだ」と。突拍子もなく生まれた苦難ではなく、起こるべくして起こっている苦難。そう考えたら今を俯瞰して見られて少し楽になるし、今を超えた先に何かあるんだな、と楽しみにすらなる。手術の経験から得たこの信念は、手術後から今に至るまで、大きな助けとなった。

出逢い。それは全ての始まりだ。大小様々な出逢いのかけ算が自分を作っている。だからそれを大切に、大切に。そしてありがとうを。これは僕が一番大切にしていることだ。

１０万分の０・３。これを超えた今、病院の待合所で頭を抱えていた頃の自分は、もうそこにはいない。（完）

〔野﨑瞬〕

しまんちゅ・釣り人発見

田代紅凰君
（3-4朝日中出身）

大高メンズの休日と言えば「釣り」。青空に抱かれての釣りは島人（しまんちゅ）の心もお腹も満たす最高の趣味。今回の釣り人は、釣りがとにかく楽しくてたまらないと熱く語ってくれた、田代紅凰くんだ。

田代君が釣りの楽しさを知ったきっかけは、中学1年生の頃に友達と一緒に釣りをしたことだ。そして高校3年生となり、部活動を引退した今は釣りに行く回数が増えたという。

田代君の釣りの基本は、とにかく楽しむこと。「釣りに行きたい」と思ったらいつでも何時でも釣りに出かける。放課後、友達と学校近くの新川で釣りをすることもあるそうだ。最近釣った魚の中には、長浜の堤防で釣ったタテフエダイという珍しい魚も。今まで釣った中で1番大きな魚は、朝日校区の川で釣った1Mほどの大ウナギだ。大物がかかったときは「釣れるかどうかドキドキして、とても興奮します」と語ってくれた。

これからの釣りの目標は、釣り仲間の高橋周佑君（3-3 深川第八中）と、奄美の海のどこかに必ず潜んでいると言われている、25kgほどのロウニンアジを釣ることだそうだ。そんな田代君にとって釣りは、「遊びのひとつで、友達みんなで楽しい時間を過ごせるもの」だという。

これからも仲間と釣りを楽しみ、奄美の自然の豊かさを肌で感じ、奄美の自然の良さや釣りの魅力を多くの人に伝えて欲しい。〔関佳世〕

長浜漁港にて大物を手にする田代君

クイズ
コクト君とまーじんま！の答えよ

答えは2番よ。戦前はおもちゃとして使われていたカンラン三線は、戦後の物資不足の中で愛用されるようになったんだそう。奄美の人々は島唄の楽器で場を盛り上げてきたんだね。私たちも貴重な奄美の島唄を守っていきたいね。

カンラン三線

放課後ぐるぐるめ

大高生の青春グルメを紹介する「放課後ぐるぐるめ」。「美味しく、お財布にやさしく、そしてインスタ映えする」の3拍子のそろった学校近くの名店を紹介する。今回訪れたお店は、オシャレなおうちカフェ「Chez-moi（シェモア）」だ。

奄美市入舟町にあるジョイフルの向かい側、レンガ調の建物の2階に佇むお家カフェ「Chez-moi（シェモア）」

店内はシックな色でまとめられたドライフラワーやぬいぐるみで飾られていて童話から出てきたかのような空間に胸が高鳴る。店主さんこだわりのバターや、奄美産のバニラエッセンスを使った手作りのお菓子の販売とともに、お昼時は予約制でランチも提供しており、20代から50代まで幅広い年齢層のお客さんがお店に訪れている。店主の國むつみさんと娘さんの2人で経営しており、今年の夏に1周年を迎えたそうだ。一つ一つ違う表情の顔がついているクリンクルクッキー（280円）やオレオを使ったオレオマフィン（380円）など、お菓子の種類が豊富で、その上、ワンコインで買えるものが多く、お財布にも優しい。

一番人気はフランスの伝統菓子であるカヌレ（300円）なんだそう。濃厚な甘さのショコラカヌレやザクザク食感が癖になるホワイトチョコカヌレなど、カヌレだけでもバラエティーに富んでいる。今回記者が頂いたのは焦がしバターと発酵バターの2種類を使っている焦がしバターカヌレ。表面はよく焼かれ、カリッとした食感が特徴で、ほろ苦く香ばしい。中はもっちりしていて、甘く濃厚で、バターのコクがふんわりと感じられる。思わず口元が緩んでしまう一品だ。店主の國さんにお店の由来を尋ねたところ

「店名であるChez-moiはフランスの言葉で『私の家』という意味で、お店に来てくれたお客さんがお家のように過ごせるアットホームなカフェにしたいという願いを込めています。カフェにあるテーブルも古木を利用し、森のような落ち着ける空間作りをしています」とのこと。移動販売もたまに行っており、その際も、お店にある雑貨を朝一番に車で運び、販売場所にテントを建て、お店を再現しているほど、落ち着く空間作りに力を入れているようだ。

「たくさんの高校生にワイワイ楽しんで欲しいです。そしてSNSにもたくさん発信してくれたら嬉しいなと思います」

ここで國さんから嬉しいお知らせ。

「お店の記事が掲載された大高ジャーナルを持参し、お菓子を買いに来てくれた大高生には、クッキーをプレゼントします！待ってます！」

余裕のある日の放課後や休日に、家族や友達と立ち寄って、好きなお菓子を味わいながらまったりと過ごしてみてはいかがだろうか。

〔清田優季乃〕

Chez-moi
営業時間　11時半～17時　定休日　月火（不定休あり）奄美市入舟町11-12　2F　ジョイフル入舟店の向かい側にあるレンガ調の建物の2階

【編集後記】とうとう引退。別れと出会いを繰り返して、時は過ぎて行くものなのだと実感している。大好きな新聞部、そして大高にどうか明るい未来が待っていますように。〔赤井洸太〕